

オガサワラカラヒワ域外保全の 実施状況報告

東京都小笠原支庁
令和7年2月3日

- ・現在の飼育状況
- ・2024年 秋繁殖の結果
- ・2024年 新規ファウンダー確保
- ・ファウンダー個体の落鳥
- ・今後の方針

現在の飼育状況

飼育個体一覧

2025年1月17日現在

飼育No.	雌雄	捕獲日	捕獲地
#1	♀	2021/9/23	母島
#2	♂	2021/9/23	母島
#3	♂	2021/9/23	母島
#4	♀	2021/9/23	母島
#5	♀	2022/9/7	平島
#6	♂	2022/9/8	向島
#7	♀	2022/9/8	向島
#8	♂	2022/9/10	姉島
#9	♀	2023/10/7	平島
#10	♂	2023/10/7	平島
#11	♂	2023/10/7	平島
#12	♂	2023/10/7	平島
#13	♂	2023/10/7	平島
#14	♂	2023/10/7	平島
#15	♀	2023/10/7	平島
#16	♀	2023/10/7	平島
#17	♂	2024/10/3	平島

秋繁殖に向けた飼育方法等の見直し

飼育形態（ペア飼育）

- ・すべてペアでの飼育（♂ 1羽、♀ 1羽）を基本とする
- ・経過観察しながら可能な限り、長期的に同一ペアでの飼育を実施
- ・春繁殖終了後、すぐに屋内施設へ移送せず、可能な限り、繁殖に取り組んでいる屋外施設での飼育を継続実施（#14♂ × #7 ♀）



結果

台風避難のため、8月13日に屋外施設で継続飼育していたペア（#14♂ × #7 ♀）を屋内施設へ移送し、屋外施設でのペア飼育を終了

2024年 秋繁殖の結果

屋外飼育施設での飼育繁殖

- 春繁殖終了から秋繁殖開始までのペアによる継続飼育（#14♂ × #7♀）の終了を受け、全9羽（♂4羽、♀5羽）から新たに繁殖ペア（#14♂ × #15♀）を選定し、実施

9月19日 順化期間を設けるため、初移送となる#15♀を先行して移送

9月26日 #14♂を移送し、ペア飼育を開始

9月29日 台風避難対応のため、都立大施設に移送

10月 1日 屋外施設に再度移送し、ペア飼育を再開

10月中旬 巣材を運ぶ行動を10日間程度確認

10月下旬 巣の周辺に飛来する頻度が低下



- 秋繁殖終了と判断
→ 営巣・産卵には至らず

2024年 秋繁殖の結果

屋内飼育施設での飼育繁殖

- ・屋外施設とは別に、残り7羽から新たに繁殖ペア（#11♂ × #9♀）を選定し、実施
- ・残りの5羽は都立大施設に移送し、飼育

9月 9日 5羽を都立大施設に移送後、ペア飼育を開始

9月16日 繁殖兆候を揃えることを目的として、10日間程度個別飼育に移行

9月26日 再度、繁殖ペア（#11♂ × #9♀）を同ケージに入れ、飼育を開始



- ・屋内ペアも繁殖兆候の同期が確認できず、屋外施設と同様、秋繁殖終了と判断
- ・11月 3日に5羽を屋内施設に移送し、通常飼育に移行

次シーズンの春繁殖に向けた飼育方法等の見直し

- ・ペア飼育の継続 → 秋繁殖終了後も同一ペアでの飼育を春繁殖まで継続
- ・屋外施設の改修 → 経年劣化のため、現在使用していない1基を改修予定

2024年 新規ファウンダー確保

捕獲方針についての検討経過

8月 第1回保護増殖事業検討会にて、検討委員より今年度のファウンダー捕獲にかかる時期、捕獲を実施する島、捕獲羽数について助言を得る



捕獲実施

平島にて♂ 1羽（幼鳥）を確保

- ・10月3日、平島で捕獲
- ・捕獲後、母島初期飼育施設に収容
- ・餌付けが良く、飼育繁殖に適した個体と判断し、10月4日に父島に移送、都立大施設にて検疫開始
- ・その後、10月16日に捕獲時ストレスと肺炎により落鳥を確認

ファウンダー個体の落鳥

#17♂ 落鳥日:2024年10月15日～16日
捕獲時ストレスによる発症の可能性

- ・捕獲日から約13日後に死亡
- ・死亡前日に食欲低下を確認
- ・食欲低下を受け、保温、酸素供給による治療を実施
- ・治療開始日の翌日に落鳥を確認

剖検結果

- ・糸状菌が関与した広範囲重度の化膿性壊死性胸膜肺炎



#17♂落鳥時の様子

関係者による落鳥に関する打合せの実施

- ・これまで発生した8羽の落鳥を受け、捕獲・移送・飼育・落鳥後の各段階においてより一層の対応の改善を図るため、関係者による打合せを12月4日に実施
→各段階において対応方針案を検討

今後の方針

飼育繁殖

- ・屋外施設の改修（経年劣化への対応）
- ・全9羽（♂4羽、♀5羽）最大4ペアを活用して繁殖成功を目指す
→父島島内の屋内外施設と併せて上野動物園での飼育繁殖着手予定
(メジロを用いた父島から上野への移送試験は9月に成功)

ファウンダー確保

- ・生息域内の状況を踏まえながら、追加捕獲を検討

落鳥個体の対応

- ・再発防止に向けて、適宜関係者間で情報共有して整理し、改善を図る